

墨田支所

都産技研には、本部、多摩テクノプラザのほか、城東支所・墨田支所・城南支所と3つの支所があります。それぞれの支所の特徴や行っている支援・サービスについて紹介します。

生活技術開発セクター 研究員 唐木 由佑

■墨田支所(生活技術開発セクター)とは

墨田支所は、墨田区を中心とした城東地区の繊維製造業、都心の卸売り業、小売業の技術支援を目的として、平成12年に国際ファッションセンタービルに開設されました。現在では、衣料品産業用資材などの繊維素材はもとより、生活用品、医療関連製品など繊維以外にも対象を拡げています。今回は、従来から墨田支所で対応してきた、支援内容をご紹介します。

新しい分野や業態への進出を図る 中小企業をバックアップ

墨田支所が注力する4つのサービス

墨田支所では、「研究開発」「技術支援」「製品開発支援」「産業人材育成」と、大きく4つのサービスに力を入れています。

「研究開発」では、繊維技術を基盤として、高機能・高付加価値なアパレル製品や、介護・福祉関連、資材分野の開発に取り組んでいます。特に、共同研究では、都内の中小企業と協力して、東京スカイツリー®をモチーフとした観光グッズ、授乳用の下着、防護服などを共同開発して、市場展開しました。

「技術支援」では、依頼試験・オーダーメイド試験への対応がメインになります。例えば、生地の色落ちや強度などのクレームのご相談に対しては、製造設備と製品に関する知識を持ち合わせているからこそ、より正確な原因究明が可能です。

「製品開発支援」では、お客さまご自身が機器を操作して、より迅速に製品改良をしたり、オーダーメイド開発支援による試作品づくりが可能です。

「産業人材育成」とは、技術セミナー、オーダーメイドセミナーなどを開催して、ものづくりの基礎を伝えていこうというものです。繊維製造機器の使い方に関するレクチャーや実習を通して、メーカーの社員教育や若手デザイナーの育成などにご活用いただいています。



ニットCADシステムを使い、三次元設計を行う

生活関連製品などの新分野に チャレンジする企業をサポート

海外の安価な製品の流入やファストファッションの普及で、現在国内で流通しているニット製品の約95%が海外で製造されている製品です。残り数パーセントの中でいかに戦うかという厳しい状況の中、新しい分野・業態に活路を見いだそうとする中小企業は少なくありません。従来のように



墨田支所が入居している国際ファッションセンター(KFC)は、墨田区を中心とした繊維関連産業をバックアップする拠点

国内の大手企業から受注して製造するOEM※にとどまらず、自らブランドを立ち上げ、販路を開拓しようとする中小企業は、共同研究やオーダーメイド開発支援などに積極的です。実際に製品化した例も複数あります。

そして、今や繊維関連の中小企業は、衣料品だけにとどまらず、生活雑貨全般あるいは産業資材や医療関連など、まったく新しい分野や業態へ活路を求めようとしています。繊維関連産業を取り巻く環境が厳しい中、変わろうとする中小企業の新たなチャレンジを、支所としてもバックアップしていきます。



中小企業との共同研究により開発した製品

※OEM(Original Equipment Manufacturing/ Manufacturer)：発注元企業のブランドで販売される製品を製造すること、またはそのメーカー

使い心地のよさを重視したものづくり、 製品評価をアドバイス

中小企業のお客さまには、OEMを脱却し、自社で企画・デザインしてオリジナルブランドやファクトリーブランドを立ち上げていただくことが理想です。そのために墨田支所としてどのようなサポートができるかが今後の課題だと思っています。

また、使い心地のよさを重視した製品評価にも力を入れたいと考えています。例えば、下着の着心地や快適性を定量的に測ることができれば、中小企業にとっても開発や販売がしやすくなりますので、積極的にアドバイスをしていきたいです。



唐木研究員からのコメント

繊維に関連することなら、評価から製品化まで一貫してサポートできるのが強みです。初めて訪れたお客さまからも「こんなにいろいろなことができるのか」との声をいただいています。ぜひ一度ご来所いただき、利用していただきたいと思います。